

愛産研 ニュース

愛産研ニュース
平成14年10月5日発行

No. 7

編集・発行

愛知県産業技術研究所 企画連携部

〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割

TEL 0566(24)1841 ・ FAX 0566(22)8033

URL <http://www.airi.aichi-iic.or.jp/>

E-mail knk-webmaster@aichi-iic.or.jp

10月号
2002

- 今月の内容
- 繊維製品の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の現状と課題
 - 繊維資源植物としてのケナフ
 - 用途開発進む生分解性プラスチック

繊維製品の3R（リデュース・リユース・リサイクル）の現状と課題

1999年の産業構造審議会地球環境部会、廃棄物・リサイクル部会合同基本問題小委員会報告書「循環経済ビジョン」において、排出量の多いもの、資源の有用性の高いもの、処理困難性の高いもの、の3つの優先度の高い品目から、優先的にリサイクルに取り組むべきであるとの指摘がありました。繊維製品は、含有資源の有用性や、処理困難性については一般的に優先度は低いと思われるものの、排出量の面では衣料品のみで年間約100万トンもの排出量を有していると見られており、一般廃棄物全体の約2%を占めています。

加えて、近年の繊維製品の低価格化の進展に伴って、製品の使い捨て傾向が強まる等製品のライフサイクルの短期化が進展したり、輸入品の急増等に伴う供給過剰により売れ残り品が増加している懸念等もあることから、廃棄物の更なる増加が引き起こされている可能性も指摘されています。

一方、衣料品などを含めた繊維製品全体の再商品化率（リユース・リサイクル量/排出量）は10%程度です。繊維製品のリサイクルは、これまでは故繊維業界（繊維製品を回収・分別・再商品化を行う事業者）の活動によるものが中心となっており、回収された繊維製品は、中古衣料として再度市場に出荷、裁断してウエス（工場用油ふき雑巾）に加工、反毛（わた状に戻すこと）して糸（特紡糸）や作業手袋、不織布などに再生、の3つが主な用途として存在しています。1999年度の繊維総排出量208万tのうち再生資源としての回収量は26万tです。その内訳は、古着として再利用されているのが7.2万t、ウエス原料としての再利用が5.5万t、反毛原料としての再利用が4万t、産業廃棄物（繊維屑）の再利用が8万tです。

愛知県岡崎市周辺は反毛技術を持った事業所や繊維原料商が多数集中している日本最大の繊維リサイクル産地で、国内はもとより海外からも繊維廃棄物が大量に集まっています。しかし、輸入等によるバージン品の低価格化などの影響によって、こうした再生繊維製品の需要が減少傾向にあり、作っても売れない状況に至っています。また、新たな再生用途の開拓も大きな進展をみせていないことから、繊維廃棄物処分問題は、日に日に深刻の度合いが増してきています。

そのため、今後は用途開発を明確にした - 再生繊維に新しい機能性を付与する技術 熱源として再利用するサーマルリサイクル技術 合成繊維を解重合してモノマーまで戻す技術 ペットボトルのように再溶融繊維化する技術 - 等への取り組みが必要と思われます。

（三河繊維技術センター 市川 進）

